

学級を安定化させる学力づくり・授業づくり

いずみ学力研 金井 敬之

学級が「安定化」する条件は3つあると思っています。

まずは、学力格差が少ないことです。つぎに、同じことを継続して取り組むことです。そして、3つめは教師の指導が一貫していることです。

漢字力、計算力は落ちている

今年ばかりは、院内学級担任というポジションで、病院に入院している子に勉強を教えています。1学期から、延べ25人の子ともたちと学習をしています。学校も学年も違った子たちですが、3年以上の子のほとんど全員といていいほど、漢字は自分で進む「自学方式」になっています。ひとりの子に「新しい漢字をどのようにならして進んでいくの？」と尋ねると、「好きだけ進んでいいことになってるねん」という答えが返っ

てきました。国語の授業で、毎日二字ないし三字を教え、音読み、訓読み、画数、部首、筆順、熟語を調べ、間違いやすい箇所を確認する。

ときには字源を教わるといった新出漢字の「一般的」な学習をしない学級が増えているのではと感じています。「自学方式」だと、漢字の得意な子はその方法でも漢字を覚えることができますが、漢字が苦手な子は、なかなか漢字を習得することはできないでしょう。

どうして、こんなことになるのでしょうか。原因は2つあると考えています。

ひとつは、学力テスト体制で、国語の授業が漢字どころではなくなくなってきていることです。主体的で対話的で深い学びという観点で授業を行う

と、漢字学習がどうしても疎かになってしまいがちになります。漢字をていねいに教えることが時間的に厳しくなっています。

また、教師の世代交代が進み、新出漢字の教え方が若い教師に伝わっていないことも原因のひとつだと思っています。小学校の教師になった人は、小学校時代、漢字を覚える苦労しなかったので、ていねいに漢字を教えることの意義や重要性を認識していないのかもしれない。

計算力も低下していると思います。学力テストのA問題が全国平均や都道府県平均点を1点でも上回る、計算力についてはしていると判断し、計算力を高める取り組みを疎かにし、B問題対策をするというようになってきているのではないのでしょうか。学力研の深澤先生が指摘していますが、学力テストの計算問題の数は、学力テスト開始当初より減少し、問題の難易度も下がってきています。(これは学校や教員の意識をB問題に向けさ

せるように意図的にしているとはくは思っています。このような実態の中で、平均点が上がったと安易に安心することは危険です。計算力がついているということは、計算がすらすらできること、特に基礎計算は瞬時にできることが前提です。2年生

以上になっても指を使う、簡単な計算をいつも筆算でするという状況では、答えが合っている、計算力がついているとはいえません。院内学級でも、5年生の児童が、倍数や約数を見つけたときに、 15×2 や $24 \div 2$ を筆算で見るのを見ましたし、3年生の子も、 $24 \div 5$ のあまりを出すとき、 $24 - 20$ を筆算でしていました。

校内研修が学力テスト対策になってくると伴って、学力向上といいなから、逆に計算力や漢字力が落ちてきたのではないかと感じています。

毎日行われている授業で、計算力の差が大きいために授業のテンポが乱れる、早くできる子とそうでない

子の差が大きくて、授業がなかなか進まないという経験を多くの教師がしています。漢字や計算の学力の基礎を鍛え、学力格差が少なくなることは、クラスを「安定化」させることにつながります。

毎日つづける

毎日継続して学力づくりに取り組むと、学力がただでなく、子どもに授業の流れがわかりやすく、「安定化」につながります。ほぐがクラスで毎日(のよう)にしていたのは、読み聞かせ、朝の読書、ことわざ、都道府県、歴史人物、百人一首などのカルタ類、100ます計算、基本わり算などの基礎計算などです(一度に全部していたわけではありません)。

また、国語の授業では、新出漢字、音読、読み取りの順で行う、体育では、4月から授業の最初はなわとびをする、社会や理科の授業では、教科書で学習したあと、NHK教育テレビの番組を見せました。授業の残

りの時間にビデオやDVDを見せる形態を「教習所方式」と勝手に読んでいます。教習所の学科の授業で、講義のあと、残りの時間にビデオを見て復習をするという形態がわかりやすく、印象に残っているからです。

指導を一貫させる

ほぐが若い頃、先輩教師が「最近、クラスの子がやっと俺の顔色がわかるようになってきた」と言っているのを聞いたとき、違和感を持ちました。そのときどきの教師の気分で、ほめたり叱ったりすると、その先生がいるときはちゃんとするが、専科の授業や他の先生の指導が入りにくくなり、学級は不安定になります。

指導の一貫性とは、一定の基準でほめたり叱ったりすること、指導言や指示は個別に対応せずに、全員に伝えること、教師がいなくても朝から帰りまで教師がいなくてもクラスが動いていくシステムができていくことだと思います。